

花粉からみたギリシア史

ペロポネソス半島北東部>アルゴリス半島>キラード

図1 南アルゴリス半島

図2 前期青銅器時代のキラード

図3 キラード湾の花粉ダイアグラム

(Andel & Runnels, Map1 より)

(Andel & Runnels, Map14 より)

(Bottema et al. Fig6K より)

3200bp : 後期青銅器時代 : 宮殿時代の終焉

6700bp : 新石器時代、開放的ナラ林が支配的

現代 : 粗放な農業と環境破壊の進行

分析

- 1) 3200bp における急激な環境変化>マツの侵入、ナラ林の減少、マッキの植生の拡大、強度な牧畜活動
- 2) 6700bp における海面上昇>イネ科のくしの歯状の動き動き、丘陵部におけるナラの単相林、海岸部のマッキ、河口部の草むら
- 3) 3m20cm における放牧地や耕地の開墾>ゲンゲの急増、ナラの急減、北側洞窟住居、住居前テラスでの農耕、南側丘陵部の開拓
- 4) 5000bp における南部丘陵部への活動拠点移動>洞窟住居の放棄、南部丘陵部での農耕と牧畜、放牧地の拡大、ヘラオオバコ、イネ科、ヤマアイ、マッキの植生
- 5) 4500bp におけるピクロダフニ土壤流出>経済活動の低下、人口減少

図4 集落数の減少

図5 人口減少

(Andel & Runnels, Fig.14 より)

6) 4500bp 以降ナラ林の回復>オリーブの値は低い、イネ科の増加、牧畜の活発化、穀物耕作の拡大、海上交易活動

7) 鉄器時代>農業経済の変化(オリーブ栽培)、マツの侵入、ヤギの放牧による食害、環境劣化の進行

T. H. van Andel and Curtis Runnels, *Beyond the Acropolis: A Rural Greek Past*, Stanford, 1987.

S. Bottema, G. Entjes-Nieborg & W. van Zeist (eds.), *Man's Role in the Shaping of the Eastern*

Mediterranean Landscape, Rotterdam, 1990.